夕刊
磐城新聞
九月十二日發行
(日曜祭日翌日休刊)
發行所 磐城新聞合資會社
東京振替一〇六・五五八番

天氣豫報 小名濱測候所觀測
今晩も明日も北西の風晴時々曇

文章雜感(上)

石井庄司

吉村冬彦氏の文に『森の繪』といふのがある。『暖い緣に背を丸くし横になる。小枝の先に散り殘つた枯れ枯れの紅葉が目に見えぬ風にふるへ、時に蝿のやうな小さい蟲が小春の日光を浴びて垣根の日蔭を斜に閃　眩しくなつた眼を室内へ移して、鴨居を見ると、こゝにも初冬『森の繪』の額く嵌窓く掛つて居る』といふ書き出しで、その『森の繪』の景色を文章によつて讀者の前に展げ、その繪を手に入れるやうになつた時のことが思ひ出として語られてゐる。『薄暗いランプの光で淋竹の皮をむきながら美しい繪を思ひ浮べて、淋しい母の横顔を見て居たら細い様な氣が胸に吹き入つて睫毛に涙がにじんだ』といふ場面も書かれ、また、その繪を買ひ求めてからは『口笛をピユー〳〵と鳴らしながら飛ぶ様にして歸つた』とある。終りに『森の繪が引出す記憶には限りがない。……外の記憶がうすれて來る程、森の繪の記憶は鮮になつて來る。……森の繪はいつでも新しい』とあつて、なほ『緣の日向はもう片隅に尺を除さぬ。少し寒くなつて來た』といふ一行が添へてある。この一行の文は、正に書き出しの部分にある『暖い緣に背を丸くして横になる云々』に照應する部分である。

此の『森のゑ』は、明治四十年一月一日發行の雜誌『ホトトギス』に載せられたものである。かやうに、前後照應した書きぶりは、後の文集『藪柑子集』では削られてゐる。即ち『森のゑはいつでも新しい』といふ文句で切れてゐて、最後の一行がないのである。この訂正はどうして行はれたか、何が故であるか、不幸究鬪の私は明かにしないのであるが、少くも筆者自らの相當大きな文章觀の進歩といはなくてはならぬ。前後相應する書き方を止めて、いささか尻切蜻蛉といふやうな文の切り方をした事は、合理的から非合理への轉向である。それがなぜよいのか、茲に考へねばならぬ問題がある。

或科學者の文に『夕顔棚下の夕納涼』といふ句があつた。正にその通りで、聊かも間違つてゐないばかりか、科學的に、正確に、また詳しく述べられた表現である。しかし自分には、なぜかピンと響いて來なかつた。自分は頭の中で『夕顔棚の下納涼』といふ表現の方が好もしく感せられた。しかしこれは科學的には多少不十分な、曖昧な、非合理的な表現であることを自認せざるを得ないが、この後者の表現に執着があるのである。なぜであらうか。文法的に正確な文章が、必ずしも名文とは言ひ得ないといふことは、何を示してゐるのであらうか。

鳩の子

榊原英伍

おととひ生れた鳩の子は
ころころはだかで寒くないか
寒くないか。
寒けりやかしましよ、お蒲團を
風邪ひきや　母さま。御心配
御心配。
可愛いゝお人形、京人形
人形のお布團、かりたげよ。
かりだけよ。
お家でひとり鳩の子は
お口をこつきん何故なら
す
何故ならす。

白熊さんよ
お首ひよつくり振りなが
ら
行つて、歸つて、また戻
る
白熊さんよ、子熊さん
なになにそんなに考へる
遠いお國よ、北の果
父さま、母さま、戀しゆてか。
白熊さんよ、子熊さん
なになにそんなに考へる
紅いお花よ、白い花、
さるすべりの花、今さかり
白熊さんよ、子熊さん
ほんとに綺麗だゝみてごらん
動物園の檻の中
行つて、歸つて、また戻る
白熊さんよ、子熊さん
遠くでなくのはお猿でしよ

平局俳黎會 九月句會。互選句集

(六)

○秋出水ローソク灯して寐らゝ家　本間 鷹子
○新涼や水面流るゝ雲の片　同 人
○新涼の屋根の高さに雲浮ぶ　段木 爾月
○青蜻蛉出水の空に飛び交へり　同 人
○秋出水渦巻見する橙のさむく　國玉 碧突
○秋出水村おのゝきて夜は更くる　土田 華岳
○出水堤防守の灯のうごく　同 人
○秋出水夜となりつのる稲田守る　同 人
○新涼や陸稲の葉鳴り靜かなる　大和田 水明
○秋凉し茄子の紫くきやかに　同 人
○新涼の夕ほのかに紫蘇匂ふ　同 人

9月13日

△伊藤博文政友會を組織(明治三三)△九代目市川團十郎歿(明治三六)△成都事件正式交渉のため川越大使南京到着(昭和一一)△山西省大同を占領(同一二)

新を好むは舊を戀ふるの心なり　漱石

訪福島

珠雲 小野務平

商工殷盛宮源溺
爭雜官廳事已灰
信嶽櫻花春爛漫
萬人紛蹈錦雲來

講談 隱密小天狗(おんみつこてんぐ)

(123) 中川雨之氏作 近藤紫氏畫

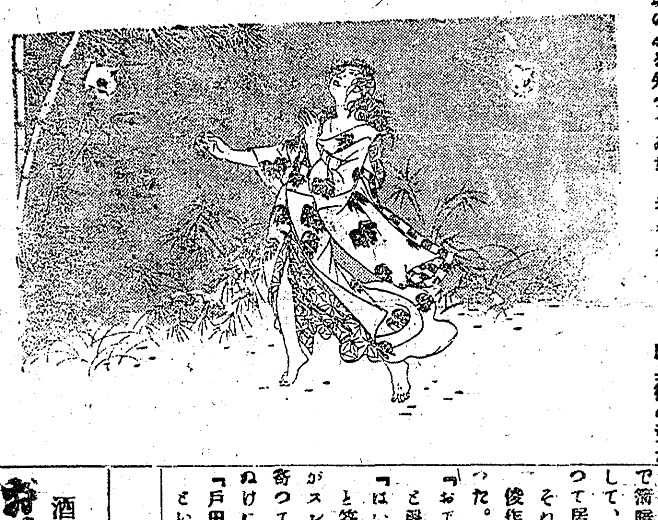
親の愛

『惣五郎、待て』
といふ聲。
はつと立ちすくむと、何時の間に來てゐたのか、父の藤兵衛が病軀を杖にすがつて、其處に立つてゐた。
『兄や、少し待つて呉れ』
『父さん、おめえ何時の間に――』
『さつきから、後で二人の話を聞いて居た』
『ふむ、さうだつたかい』
惣五郎、張り詰めた元氣も脱けがつかりしてしまつた。

『おれの頼みだ惣五郎、お蝶が可哀想だと思つたら、どうか戸田さんを助けてやつて、そして兩人を、そつと何處かへ落してやつてくれ』
『お父さん、何を言ふんだ、そんな事をして見ねえ、先生始め、同志の人々に、どうしておれが、顔向が出來るんだ』
『心配するな、後で知れたらその罪は、このおれが引受けよう。どうか、おれの白髪首を切つて先生にお詫をしてくれろ。おれは疾くにお蝶の心を知つてゐた。おてふは女だ、あれだけは、どうかして、騒ぎの中へ、巻込んでやりたくねえと思つてゐた、その矢先ちやうど好い幸ひだ、戸田さんよ二人何處か遠い處へ逃がして遣つて呉れ。戸田さんだつて、情を知る人なら、まさか、それでも幕府へ訴人しようとは言ひはしねえだらうから』
前には、血を吐くやうな父の言葉。後では妹の啜り泣き。短刀を握りしめてゐた惣五郎の手先から次第に力が脱けて行つた。
肉親の愛、男の意地、腸をかきむしられる四苦八苦の態。
『おめえ等二人して、そんなことを言つて、おれは一體どうすれば宜いんだい』
彼は、頭を抱へて悶えたが、やがて、一切を斷念めでもしたかのやうに、クルりと踵を回して、小屋の方とは反對の、住居の方へ悄々と戻つて行つてあつた。
その後姿を、ヂツと見送つて居る藤兵衛の膝に、すり寄つたお蝶。
『お父さん』
といつて親上げた眼に、感謝の涙が溢れてゐる。
『お蝶よ、心配するな。おれが命に換へても、戸田さんは助けるぞ』
『あ、あたし、嬉しい』
顔へ手を押し當てゝ、すゝり泣くお蝶の髪の上に、『ボタ〳〵』、藤兵衛の涙が落ちる。
『戸田さんを連れて、早く江戸を離れてくれろよ。それも、人に知れない遠い處へな、そして、親も兄も、もうこの世にはゐないものだと諦めて、いつまでも、戸田さんに、可愛がつて貰ふんだ、それがおまへの幸福といふものだ』
親の慈愛の有難さに、お蝶はもう何も言へなかつた。
あとは暫らく、親子のすゝり泣きの聲のみであつた。

×× × ××

『戸田さま――戸田さま』
と微に呼ぶ聲が、夢現ともなく耳に入つたので、俊作はフツト目を覺した。
見ると、夜更の小屋の中で薄暗い土器の灯を後ろにして、蚊張の外に人間が坐つて居る。
それは、お蝶であつた。
俊作は、ムツクリ起き直つた。
『おてふどのか』
と聲をかける。おてふは
『はい』
と答へて、顔と、蚊張とがスレ〳〵になるくらゐに寄つて來て、そして、だしぬけに。
『戸田さま、大變です』
といつた。



七月一日商工省令牛革使用制限により一時牛革靴製造中止致シ居リマシタ以來御得意の皆々樣ニ一方ナラヌ御不便ヲ掛ケ何トモ申譯アリマセン、就テ當月一日ヨリ使用制限ガ緩和セラレ尚其筋ノ許可ヲ得マシテ茲ニ皆々樣ノ御需メニ應ズル事ガ出來ル樣ニナリマシタ併皮革ノ使用緩和セラレマシテモ製革會社カラノ補給ハナク民間ノ(ストック)品ノアル間丈デ長クテ六ケ月位シカナク其後ハ代用品ニ振ル他ハナイノデス兎ニ角國策線ニ沿フテ代用品モ(牛革以上優良品)目下鋭意研究中デ近ク責任ノ持テル品モ取扱フ覺悟デアリマス尚今回ノ物資統制ニ基キ且ツ優良品ノ販賣ヲ目的ニテ左記ノ處ニ事務所ヲ設ケマシタ依テ今後團体ニテ大量注文ノ場合ハ何卒同事務所ニ御申出下サル樣偏ニ御願申上ゲマス。
敬白
福島縣平市田町五
保證責任 石城製靴工業組合
事務所
電話一六七番

酒とマヅイ
おせんの茶ちやん
平市田町花ノ里
電話三三番

廣告

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平市・九品寺前

吸入用酸素 純度99%
度量衡器 モノサシ マス ハカリ
體温器 寒暖計
開内藥局
電話四〇番

内科、小兒科 (入院、自炊の便あり)
鈴木醫院
平市鍛冶町八番地 (吉田屋呉服店西隣)
電話四五二番

空冷式 健康陶枕
笑はれる程よく眠れる、疲勞倦怠を快復し精力記憶力を増進する實用新案の健康陶枕
效能
腦ヶ酷使する人、腦神經衰弱の人は藥よりも……この空冷式健康陶枕を……
高血壓症 のぼせ症
腦溢血症 耳鳴、頭痛症の方に
不眠症 特に卓効あり
特約店 平市五丁目 入江陶器店 電話五八二番

看護婦至急募集 (委細面談)
高柳醫院

内科 臟腑外科 外科 花柳病 一般 (入院隨意)
平市六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

磐城の御みやげ品
名物 靈峰(みやま)羊羹 (名産柿煉)
姉妹品
磐城耶馬溪……美山(みやま)羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種一本十錢
製造發賣元 小川郷驛前 平屋賣店

建具 家具 テーブル 椅子
和洋 其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。
諸官衙 各學校 御用達
製作販賣
平市五丁目四
片寄製作店
電話四八四番 片寄小彌太
十五、六歳見習職工 職工募集

耳鼻科 咽喉科 專門
(入院隨意 病室完備)
平市南町一六番地
大和田醫院
電話一七〇番

診療科目
一、齒科一般 保存科、補綴科、齒槽膿漏科 齒列矯正科、小兒齒科、齒科架工科
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町(松月堂向ヒ)
中野齒科醫院 (電話五〇九番)
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日大齒科醫學士 盬谷伍郎
補綴部主任 佐藤重義

第一線の 慰問品ニハ
見不知羊羹と潮の華
平市五丁目
泉屋菓子店
電話六六八

月曜論壇

防空演習と市民

愈よ今夜から本格に行はる防空演習に就ては、須く事の重大性に鑑み、最大限の眞劍さに之を行はねばならない。惟ふに現代の戰鬪が立体的となり、各國競つて空軍の充實に狂奔してゐる今日では、我國の如く四邊海洋を繞らせる地勢に於ても最近の如く著しく發達した航空機の高性能に對しては其が特別の障碍とならないのである。戰時又は事變に際しては先づ空襲によつて直ちに相手國の中樞を脅かし、重要資源を潰滅し軍備を破壞して以て國內を混亂に陷れんとするであらうことは想像に難くない處である。從つて一旦緩急と戰端を開くが如き事態に立至つたならば、敵機の來襲による危險を防退し、その被害を可及的に輕微ならしむるが爲、平素より防空對策を樹立して置くのは極めて重要なる事である。諸外國に於ては夙に防空に關する法規の整備に腐心し、現に防空法規の制定を見たるもの數ヶ國に達して居るのも蓋し之が爲である。我國に於ては一昨年關係各省間に於て調査研究を重ねた結果漸く成案を得て第七十議會に提案され協贊を經て昨春四月二日之が公布を見たのである。一体防空とは戰時又は事變に際し、航空機の來襲に因り生ずべき危險を防止し又之に因る被害を輕減する爲陸海軍の行ふ防衞に卽應して陸海軍以外の者の行ふ燈火管制、消防、防毒、避難及び救護並に之に關して必要なる監視、通信及び警報を云ふのであります。防空計畫とは防空の實施及び之に關し必要な設備又は資材の整備に關する計畫で云ふのである限り、防空に關する訓練教養は法の支配に進退すると云はんより寧ろ各自生存權を伸役する所以であり之を抱一的に課せられた作爲として或種の脅迫さへ讓し苟も所定の行動放漫に附するが如き不心得があつては斷じてならない。親愛なる全市民の自覺自戒を祈つて已まぬ

各自の健康に對應し 學業督勵の方針樹立
磐中で全生徒に檢溫開始

磐城中學校では最近過般創設された同校父兄會の費用で体溫計五十本を購入し千有餘の全校生徒に對する檢溫を開始し、一人別に詳細な記錄を止めてゐる。卽ち各自の健康狀態に應じ敎授學習上の寛嚴參酌に資せんとするもので之が實施の結果に就ては、時恰も統制の重大な部門として國民体位の向上が叫ばれて居る今日丈けに校の內外から迎へられてゐるが、一体同校生徒の進學率は淺水校長就任以來の向上は一大躍進であり、一般に良好な素質を有する同校生徒は其の指導訓練宜しきに適へば必ずや從來以上の成績を收め得る―との斷案に到達した同校長は學科、健康の兩方面に向つて指導の完璧を期する爲め、動もすれば極めて限られた豫算に拘束され、理想の施設に出でられぬ欠陷を補ふべく前記父兄會の創設の機運を釀致するなど將來の大成を目標に極力生徒を鞭撻しつゝ校風は頓に一大緊張色を示すに至つたが多數生徒中には往々先天的健康に惠まれぬ向もあり、之等に對して學を強うる事は、却つて不測の災禍を招き、敎育の目的とは遙かなる處に關趨を見るが如き場合無きを保し難いので隨時全校生に對して檢溫を行ひ疾病異常を早期に知つて場合によつては休學の強制も辭せざる迄健康を根本とする敎育方針で邁進することゝなつたと

西山小學校長渡滿

小名濱小學校長西山直三郎氏は縣教育會の常磐鄕土將兵慰問並に滿洲農業移民地視察代表の一人として來廿一日新潟港出帆二十日間の日程で淸津、牡丹江、チャムス、ハルビン、新京、奉天、大連、旅順、安東、京城等を經て歸縣の豫定

護れ大空

燈火管制改善さる
愈けふから演習本格化

『護れ大空』のスローガンも力強く戰時下秋の防空訓練は愈よ今晩からだ。向ふ五日間の機訓練を控へて制服凜々しい市內防護分團員のハリキリ振り、モンペ姿の國婦會員、さては理想的燈管設備を施して待機の一般市民等々・大空への關心は愈々深い。一昨十日行はれた準備訓練も防護團員の活動と市民の自覺とによつて先づ大成功のうちに終始した。燈火遮閉の施設は前回の空襲に比し一段と改善され、或ところ等は店頭の櫥窓を利用して光の漏れない遮光口を設け、管制下美事に營業を續けてゐたところ等もあつた、この外どこも黑幕を用ひたその燈管の完璧さは力強い銃後防空陣の現れである。サア！皆挑戰の心構へで模範的訓練を遂げなければならない

燒夷彈實驗

日曹小名濱工場では明十三日夜同海岸で燒夷彈の實驗を行ふ

磐中惜くも四位
水高主催競泳戰績

水高主催第十回縣中等學校水上競技大會は既報の如く昨十一日の日曜をトし水高プールに於て開催したが參加十三校、磐中からは過般入賞に於ける縣下選手權大會で一着の水際立つた河合選手振りを見せた大平芳人（一般百米自由型）志賀昌平（二百米）兩君をはじめ鈴木龍一、白土健、長谷川良光井出高三、新妻市平、若松彌生の銳鋒古關八名が出場し奮戰大に努めたが左の成績で惜しくも第四位となつた

1早稻田實業 2佐野中學 3湊商業 4磐中

△臨時常任委員（四倉町佐藤唯之助氏當選）△災害復舊工事施行（過般の豪雨による神谷、草野兩村內水路崩壞、堤防欠潰工事費千圓）

小川江總會

小川江筋組合では秋の水渴季を利用して全水路の大關工事に着工することとなり十一日臨時總會を開いて請負其一切を管理者一任に決定した、この外議決事項左の如し

磐女選手健鬪
（陸上奧羽豫選）

十一日山形縣營運動場で擧行された第二十五回全日本陸上競技選手權大會南奧羽豫選第二日に兩場の磐城高女は福島高女、山形第二高女を相手に健鬪したが同校選手の成績左の如し

△百米3北郷一三秒八△八十米障碍1長谷川とし一五秒一△四百米繼走2磐女チーム五五秒九△走高跳4村田一米二五

陣中を聽く
（236）

一年振りで上海へ
物凄い復興に驚く
市內田町出身 大竹庫君（通信）

冠省、上海の生活に馴れず來た關係と淋しさが感じられます。へ來て早くも思ひます。兎に角思ふ存分二十日間を過し働ける前線が戀しくなりました。彈丸が絕對に來ないと云ふ氣分ぬといふ事は非常な魅力があるもので前線に比して何となく怠けて來た樣な氣が致しません。緊張味が薄らいで來た樣な氣がしてなりません。窮屈さを感ずる事が出來ないので一抹の方の勤務は妙に窮屈な野生かと思ふ何となくします、これは放膽な野生かと思ふ。

彈丸音のするところは危險もありますが〇〇も勝手で〇〇が出來ればこそ非常な魅力があるからです。當分ならず或は水下す！一体此の人間中皇軍が今尙前線で悪戰苦鬪しているのを知つてゐる者があるだらうと癪に觸るてゐます、女共が最も日際今後永久に其の快樂に接する事が出來ないのではない。何となく一抹の伎存氣な面をして歩き廻つてゐます、

一年振りに見た上海は餘りにも復興が物凄く發展しての變り方なのかと云つた樣な賑かさ。至るところ邦人の洪水です！一体此の人間中皇軍の恩恵を感じないのであらうかと疑ひます、軍の有難さ、祖國の恩の感謝に對しては到底ないと思ひます、やたら新しい樣な新商業が起きまして前より猛烈な進出ですが、多くの邦人が陳び返り商賣を始めてゐます。支那人の商店も毛唐支那、尖島も勿論皆多く女性達も劍味を想像す些か言葉がウンザリしますし行く有樣、内地に於ける居る者は關西と九州人で相當美人が乏しいものに乘つて乙に澄ましての車（洋車）に乘つて乙に澄まし乃至五圓です。二回目的の大根を買ひに行くにも人力深夜が九分通りです、尤も內幕は軍人軍屬すでの下す直に所所泣菜つ菜やを抱く位です。移住者根性獨特の世界で實に所所謂魔都といふのが居留民根性と云くし難きエロとグロがあるとのか極めて不愉快な感じそうですが軍人の通行が許されぬところで殘念です。中でも淋しい爲の僻目でしかも何だか面白い体驗を得ましたを與へられます、これは懷さに保守的でもが又御便りも致します、二百へ方が餘りに保守的でもが又御便りも致します、二百く誰もが感ずるところの樣十日も無事過ぎました。秋の虫は夜毎に美聲を發してゐます。です、橫丁のカフエーや喫茶の繁昌振りにも驚きます。

年に七十頭增殖
二十五番ひの飼養實績
養狸事業皮算用

地方の養狸業に各方部の組合等中心となり、合理的飼養方法の研究その他、經營の前途に益々有望視されて來た元湯本町長元縣議にして現に組合長たる地方の代表的飼養者高木巳之吉氏は昨年來二十五番ひの大規模飼養をなしたが、うち仔獸を分娩したもの十九番ひ、之の合計七十餘頭に達し、最初見込んだ收益一萬圓には上らなかつたが何は八千餘圓を得たに一段の增收を期し大に張り切つてゐる、斯樣な狀況の下に附近農村でも共所此所に小規模の飼

同一犯人か
（既報）らしい

小名濱町映畫館內の五百圓スリ事件で平署當局が活動してゐる矢先き今度は湯本町に二百五十圓の窃盜事件が突發、目下犯人搜査に躍起の活動を續けてゐる大体同一犯人の仕業と見てゐる

萬引。小名濱町字西士工（長澤）福吉（四二）は去る四日夜同町山口金三郎方から銘酒一本を失敬、呑んだ煮氣まかせて洋品類を數回に亙つて萬引、平署へ

高職奇禍

小名濱町高田高職東京市小石川區西丸町松井幸助（四〇）は十一日午後七時頃日曹發電所工事の五十尺の高所から轉落、肋骨を折つて兩傷間もなく絕命した

求刑。窃盜男＝內鄕村白水土工水谷秀吉（三二）は十二日平區で大腸檢事から懲役十月が求刑された、判決（淺野判事）は十三日

。。。。農野崎樹の子供一人もある好間村小谷作妻ナホヨが昭和十年六月子供を連れ、實家に歸つたきゝ歸らない妻から平支部へ離婚の訴へ

傷害事件の 交換手死亡
犯人未檢擧、同情集る

既報、去る七月七日の雨の夜平市商業學校グラウンド脇の路傍で暴漢に襲はれ腹部に傷を負ひ市內八幡小路居住平局電話事務員某女（二九）は市內田町安齋病院に入院療養を受け一時治つて退院したが其後再び惡化引續き同病院に入院中だつたが腸管閉塞症を起し昨十一日午前零時死亡した。犯人は當局が必死の活動も空しく未だ逮捕されず居る矢先きであり同女の死は同情されてゐる

。。。。苗代授賞式。磐三郡苗代共進會賞品授與式を二十日相馬郡農會で擧行

お披露目　山形家から色々な意味に於ての新代的美人『とし丸』が出現、大にひいきを願ふとある

檜山氏長逝

市內五色町遊廓住吉樓主人檜山謙

十三日（小名濱測候所發表）
滿潮 午前六、二〇 午後六、〇五
干潮 午前〇、三〇 午後一二、二〇

平市新投影（四）
豚ばこ文學
灰色の壁に書かれた一代の著作斷片

言論の自由な以上、豚ばこの厄介になる程の人達によつて崩れかけた廢墟の白亜の様なそこの灰色の板壁に、黑もじの尻で爪の先で而も哲學的の樹らぬ時代に於て、胸中の鬱憤を晴らさんが爲に、時の政治や風俗に對して痛烈な譏刺を加へた所謂落首なるものが、既に平安朝時代から行はれて今日に於ける豚箱の紙の一過程をなしてゐる。痛烈に溢した樂書きがされてゐる事は正に當る落書で茶碧の留置所に入れて見た人の話。場所柄勿論一高い窓から射し込む日の光を頼りに、其所の板壁から臆氣な文字を拾つて見た人の話。場所柄勿論一高の便所に在ると云ふ樣な明るいユーモラスなものは殆ど絕無で何れも詠歎的な、らすんば呪咀的な或は改悟の留念が等々と發現されてゐるのが多い。

今様ジョンバンヤンの天路歷程には大体次の樣な內容が盛られてゐる。餘計な註釋抜きで並べて見る

A、私の生活を支配するものは末梢的神經丈けです、只そこはかと悩みそして狂はしむのみ、吁自己濟度の方法もがな。

B、──俳は故鄕へ、俺は留置所へ

C、一切空

D、今度で〇亭のK子の顏も見納めだ。

E、人生僅か五十年、目前の快樂を以て（後略）

F、人の世に人と生れて人の道、外れて通る人ぞ悲しき。

G、法律に死すとも道德に生きよ。

H、父兄弟妹許して下さい、最後は唯死あるのみ僕は死んでお詫びします

〇

若し失れ×斯を飲み廻つた連中が釋放待つ間の暇潰しに書き捺つた自棄半分とエロテイシズムのカクテルに至つては物指しを飲んだ大神樣の樣に鯱ち張つた警察官を思はず破顏一笑を禁ずる能はざる底の傑作も少くない。と云ふから其れ等門外不出である丈けに逆ふ愉快なんである。

曆火曜 閏七月二十日 戊申 友引 房宿 新九月十三日

諸判定總部 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 方針を定め落付きて働けば吉日となるべし▲二黑 退く時にはあらざれど進むには十分用心せよ▲三碧 目上の引立てに逢ふ吉日油斷なく働くべし▲四綠 空業家のみ强くして割合に實收の少なき日▲五黃 道路はふさがり活氣は殺れて自由の利かざる日▲六白 勞苦を常と思ひて勵む時は成果を見るべし▲七赤 無理算段に心を苦しむるよりし給みたのしめ▲八白 人に求むる事は多く行違ひとなる文書注意▲九紫 心を大海の如くし小故を捨て大勢に從ふべし

廣告

簡易ノ金融 蓄 磐城無盡 趣味ノ貯蓄 町各内縣所張出

父謙儀病氣ノ處藥石効無ク十二日午前三時半死去致候間此段御通知申上候
追テ葬儀ハ十四日午後一時出棺向鎌田弘源寺ニ於テ佛式相營ミ可申候
九月十二日 平市鎌田町
男 檜山忠太郎
親戚總代 酒井清
友人總代 吉村安次郎
長谷川德代

平市紺屋町 吉田眼科醫院 醫學士 吉田久雄 電話六八番

夜診 胃腸 肛門 專門 內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 松村醫院 （平市南町 電話一〇七番）（見習看護婦募集）

平市田町 高久病院 （電話五三一番） 醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤沼清 藥劑士 佐竹勇雄 內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 （看護婦至急募集）